



居合道だより

第 1 0 4 号



1

はじめに

三寒四温のこの頃、庭の梅の花が、ほのかな香りを放ちながら凜として咲いている。筆者は華やかな桜の花よりも、孤高漂う梅の花の方が好きである。

先日、実力派の歌舞伎役者で日本舞踊坂東流家元の坂東三津五郎さんが病気で亡くなった。59歳のまさに今から油が乗っていこうかという年齢であった。

中村勘三郎さん、市川團十郎さんと大名跡が死去した後、次代を担う存在として期待された役者さんだったので、歌舞伎ファンならずとも誠に残念である。

新聞の評伝によると、「歌舞伎の芸というのは先輩たちからの預かり物。しっかり次の世代に譲り渡さないと先輩たちに申し訳ない」とよく話していたそうである。

「歌舞伎が400年続いてきたのは、後輩に芸を移すという繰り返しがあったからこそ。僕も後輩から『教えてほしい』と言われれば隔てなく教えます」。「ただ、厳しく教えることが難しい時代になった」とも憂えていたそうである。

居合道は歌舞伎よりもっと古い歴史を持っている。始祖林崎甚助重信より累々と枝分かれしながら発展していき今日に至っている。

今我々は、この日本古来の伝統武道を正しく次代へ譲り渡していくという重大な責務を負っている。

始祖の居合がどんなものだったのかは当然知るよしもないが、昭和の居合と平成になってからの居合では明らかに微妙に変化している。進化していると言えるのかも知れない。

芸事での本当の名人とは、決まり事から自由になれる人のことだそうである。舞台の上で自由に無心になれる役者こそ名人と呼ぶにふさわしいと。

以前、人間国宝である白磁の井上萬二氏の言葉を紹介したことがある。「伝統は古いものを模倣することではない。先人の技を正しく受け継いで、現代の平成の伝統というイメージを創る。それが50年後、100年後に平成の伝統となる」。

武道には「守、破、離」という言葉がある。師の教えを忠実に守り、その上で創意工夫していき、やがては独自の一派をなすということだが、古流を伝承していく過程では、外れてはならないことがあり、離れていかなければならないこともあるということだろう。



2

会員の声

平成24年度居合道初心者体験教室修了生 匿名

私は物心がついたころより、沖縄空手を習い始め、今日にいたるまで武の道を歩んでまいりました。30歳代後半になってから、空手のことしか知らない私は、他の武道がどのようなものなのかを探究してみました。特に、古武術には興味を抱き、大東流合気柔術を習い、そして、居合の道場へも見学に行ってみることにしました。

初めて実際の居合をみたとき、正直、啞然としました。空手のように組手をするわけでもなく、みんなマイペースに黙々と素振りと型稽古をされている。私にとって、武術とは、相手を効率よく倒すための技であり、技のかかり具合をためす相手がいて成り立つものだと考えておりましたので、仮想敵を相手にひたすら刀をふり続ける稽古のやり方には疑問を抱き、到底理解できるものではありませんでした。また、何かを斬るわけでもないのに、真剣を使うことの意味もさっぱり理解できませんでした。

今だから言える話ですが、当時は見学だけでもう十分だと思い、二度と道場へ足を運ぶつもりはありませんでした。しかし、たまたま居合道教室があるとのことでしたので、それならば、何か得るものがあるかもしれないと思い、とりあえず半年だけやってみることにしました。

教室では、稽古で教わったことは、毎回ノートに書いて記憶に留めるようにしました。また、教本は何度もノートに書き写して暗記しました。教室は週に一回しかありませんので、とにかく家で毎日稽古をしました。そして、半年が過ぎ、教室が終わるころには、居合を続けていく心境へと変わっていました。興味がわいたというよりも、続けなくてはならないという使命感のようなものを感じました。居合を続けるからには、本気でやる。空手の現役に終止符をうつことを決心しました。二つの道場で同時に現役としてやっていくことは、片方に身が入らないし、指導者に対して失礼だと考えたからです。

入門するときに一つの目標を立てました。「千日、休まずに稽古をする。」ちなみに、千日後は、来年の七夕です。目標に向かって毎日刀をふっていると、次第に模擬刀では何か物足りなさを感じ、最近、真剣を手にししました。刀を選ぶとき、数ある刀の中から今の刀をふった瞬間、「これだ！」と感じました。先生から「縁だと思って末永く大切に使いなさい。」と言われました。今では、真剣を使って稽古をすることの意味がわかります。居合道における稽古の醍醐味とは、世界に一振りしかない自分の刀に魂を吹き込むこと。刀に血がかようまで幾歳月もかけて刀をふり続けること

で、刀と精神とが調和して一体となり、型をとおして、その人にしか出せないあじわいと美しさが、内面からにじみ出るものだと考えます。

今でも教室のころから続けている稽古日誌は、私にとっては大切な宝物です。先生から一度指摘されたことは、二度と同じことを言われないように努力しているつもりですが、やはり、同じことを指摘されることもあります。そう簡単に直せるものではないから、納得がいくまで繰り返す。自分の思い描いた剣風が表現できたら、うれしい。だから、稽古は楽しい。

「千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって錬とす。」千里の道も一歩から。これからも一歩一歩、着実に歩んでまいります。





3

主な出来事

2月15日（日）

全日本居合道大会選手候補錬成会

若松武道館



4

3 月、4 月の予定

3 月 1 日（日）	県居合道審査会 全日本居合道大会実行委員会	福岡武道館
3 月 2 1 日（祝）	北九州居合道大会	北九州総合体育館
4 月 1 1 日（土）	居合道教士称号筆記試験	福岡市
4 月 1 2 日（日）	第 4 5 回福岡県剣道連盟武道祭	福岡武道館

居合道だより 104号



公益社団法人 福岡県剣道連盟

福岡県剣道連盟 居合道部

第104号 平成27年3月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部 URL: <http://riai.info/>

発行人：井手友太 〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847